

## 田中愛結美さん（大川目中学校3年生）が全法連会長賞を受賞

平成29年度中学生の「税についての作文」コンクールで久慈市立大川目中学校3年の田中愛結美さんが、公益財団法人全国法人会総連合会長賞を受賞しました。

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会では、将来を担う中学生の皆さんが、身近に感じた税に関する事、学校で学んだ税に関する事、テレビや新聞などで知った税の話などを題材とした作文を書くことで、税について関心を持ち、正しい理解を深めていただくという趣旨で「税についての作文」の募集を行いました。本年度は全国7,528校から616,072編の作文が寄せられました。

田中愛結美さんは租税学習を通じて感じたこと、学んだことや私たちの暮らしの中で税の使われ方を理解したこと。また、お父様が納税組合の活動を行っていて、納税意識の高揚を図っていることなど税の身近さや納税の大切さを理解したことを作文にまとめた。

田中愛結美さんには12月11日に賞状伝達が行われ、高橋博実久慈税務署長、大平保男久慈納貯連会長と久慈法人会晴山良一副会長も出席いたしました。

久慈法人会青年部会では、29年7月13日に大川目中学校で租税教室を行いました。田中愛結美さん本当におめでとうございます。（租税教室の様子はホームページに掲載しています。）

田中さんの作品は次のページに掲載いたします。



表彰伝達式の様子。

中学生の「税についての作文」公益財団法人全国法人会総連合会長賞受賞作品

## 「私達の暮らしを支える税」

久慈市立大川目中学校

三年 田中 愛結美

「税とは何でしょう。」租税学習をする前に先生が言った言葉に私は答える事ができなかった。私は「税」があまり身近な物ではないと思っていたし、なぜ必要かよくわからなかった。なぜなら、税金は大人達が払う物で、中学生にはあまり関係がないと思っていたからだ。なので、租税学習をする時はなぜ学習する必要があるのか、大人になってからでも良いのではないかと疑問に思った。しかし、租税学習をしていくと、「税」がとても身近な物に感じた。

さて、私達中学生が一日に関わる「税」はどのくらいだろうか。私達の生活に欠かせない水。その上下水道は税金で整備されている。安心して食事をするための農業、漁業の支援にも税金は必要だ。学校に安全に通うための道路や信号、見守ってくれる警察の税金がなくては成り立たない。学校などの教育施設の建設や机、椅子、教科書にも税金は使われている。そして、義務教育九年間にかかる費用約八百三十七万三千円を税金で負担している。私は一日に関わる「税」がとても多く、九年間の多額の費用が税金で支払われている事を知って、とても驚いた。他にも、「税」はどのように関わっているのか気になり、調べてみた。「税」は教育施設、道路、港湾、水道などの公共施設やごみの処理、警察、消防などの公共サービスを提供している。また、医療、年金、福祉、介護などの社会保障も行っている。これらから、「税」は私達の暮らしに身近な物で、私達の生活を支えている事が分かった。

しかし、正しい申告、納税せず、故意に不正な手段で税金を免れようとする人もいる。「税」は私達の生活を支える大切な物だから、しっかり申告し、納税してほしいと思う。

私の父は地域の納税組合に入っている。納税率を上げるために、のぼり旗やポスターを掲示している。父の話によると、実際に税金を払う事を忘れていたり、お金があるのに税金を免れようとする人がいるらしい。しかし最近では「納税組合は税金を集めていないから、必要ではないのでは。」という町民の声もある。その声に対して父は「意味はある。啓発活動をする事によって、納税に対する意識を高めている。」と考えている。私も、税金を負担する一人ひとりが、「税」に関心を持ち、納税に対する意識を高める事が大切だと思う。

租税学習で「税」に対する意識が変わった。将来、私が払う時が来たら、しっかり申告し、納税していきたい。そして、納税率を高めていきたい。